

FINATEX

HOLDINGS

# 隣接領域をBeyondするFinatextのエンジニア組織設計

組織の信頼性を高める ～SRE/情シス/セキュリティの領域を超えて

Satoshi Tajima, Finatext Holdings Ltd.

# 本日のテーマ - 隣接領域・横断

## 📖 イベントの説明

### 概要

ソフトウェア・プロダクトを運営する中で、セキュリティ、SRE、DevOps、情シス、コーポレートエンジニアといった役割は他の職務に比較して横断的になりやすい性格をもち、隣接領域にも関わることが求められます。

地続きとなっている領域をどのように捉えて組織を拡張し、信頼性を高めていくべきかについてテーマに対する考えを同じくする各社が、その取り組みの紹介や以下のテーマでのパネルディスカッションを通じて議論を深めるイベントを開催することにしました。

- 信頼性を拡張したいとする組織で確保したい「信頼性 (Reliability, Trustworthiness)」とは
- 組織として信頼性をどう拡張するのか
- 信頼性を拡張する組織とはどのような個人と相性がいいのか

**=> FinatextグループにおけるPlatform Teamについての紹介**

## 会社紹介 & 自己紹介

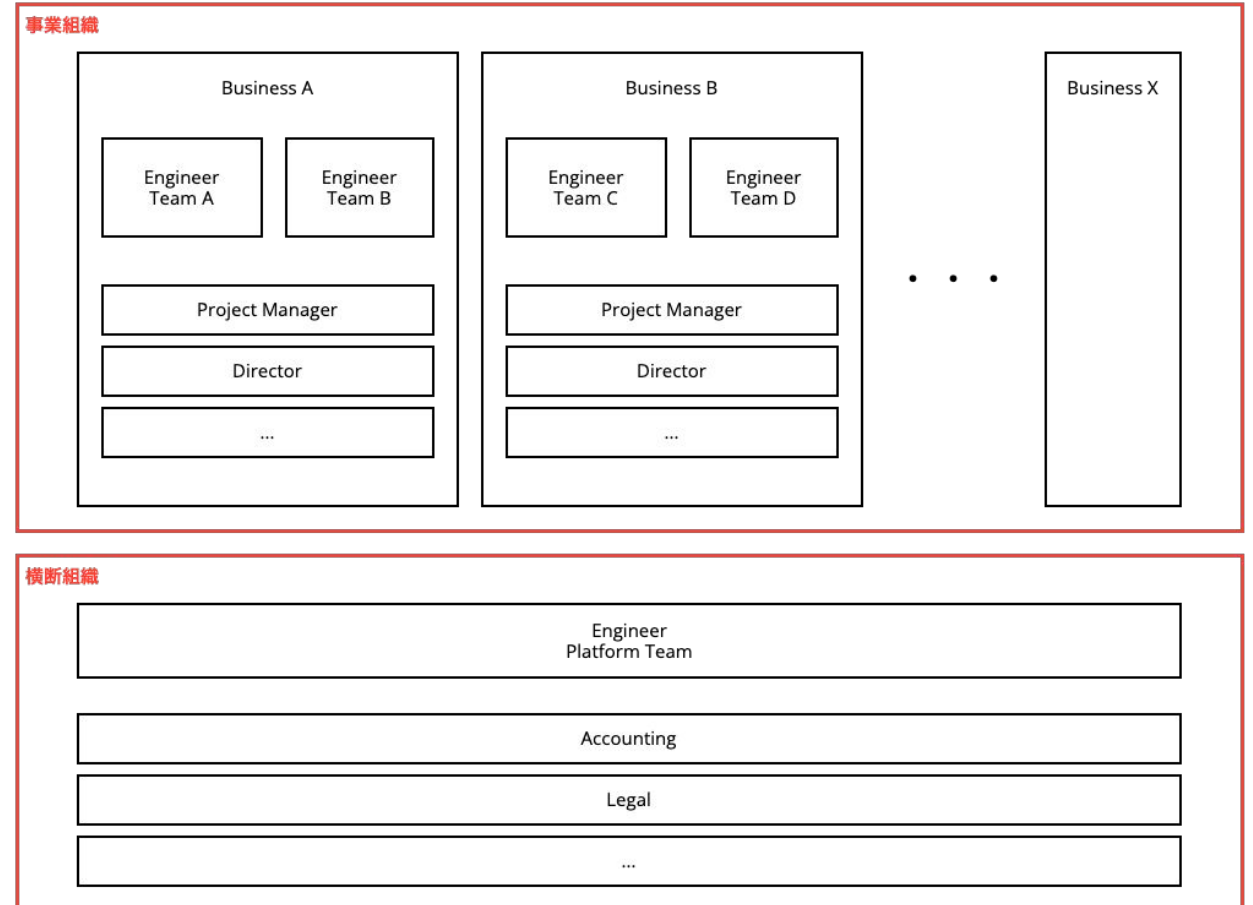
---

- 会社: 株式会社Finatextホールディングス
  - 金融の基幹システムをSaaSにして提供している会社
  - 複数の金融領域(証券・保険・貸金)の**基幹システム(toB)を提供し、**かつ基幹システム上で稼働する**サービス(toC)も提供している**  
**マルチプロダクト企業**
- 発表者: 田島 悟史 (X: @s\_tajima)
  - 株式会社Finatextホールディングスの取締役CTO/CISO
  - 2019年に社員として入社後、Platform Teamを立ち上げ

# Finatextグループの組織構造

## 事業組織と横断組織

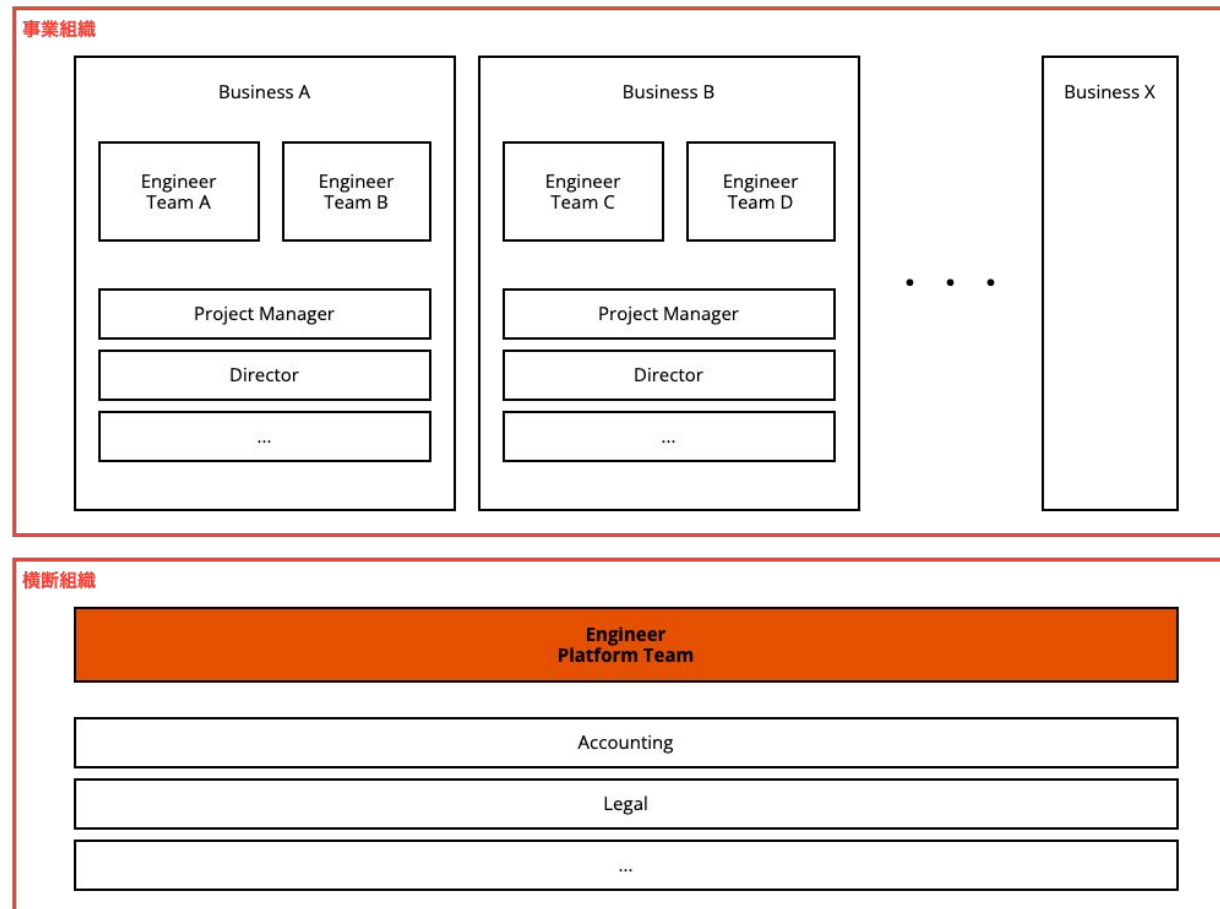
- **事業組織**は、縦割りで事業(証券・保険...etc)毎に組織が分かれている(いわゆるフロントオフィス)
- **横断組織**は、各事業で共通して必要な仕組みや機能を提供する(いわゆるバックオフィス)



# Finatextグループの組織構造

## Platform Teamの位置付け

- 横断組織の位置付けで、各事業で共通して必要になる **技術基盤** を提供している (≒ 車輪の再発明を防ぐ)
- 領域としては大きく **Product** / **Corp System** / **System Risk** の3つに分かれる
- 書籍: 『チームトポロジー』で言及されている “Platform Team” と役割は近いがカバー領域はより広め



# Platform Team とは

---

- 役割
  - 社員が心地よくプロダクト作りを進められるような技術的な基盤を作る
  - 会社としての技術に対する投資やリスクの取り方のバランスを管理する
  - プロダクトの開発のスピードを上げ、品質や安全性を高めるためのサポートをする
- ≠ インフラチーム
  - あくまで各事業の開発者が  
オーナーシップを持ってプロダクトを開発・運営するのを支援するチーム

## Platform Team の担当領域 - Product

---

- AWS・GCP・Azure等のガードレールの整備
- CI/CD基盤や構築のガイドラインの整備
- システムの開発・運用に関するのSaaS (DatadogやSentry等) の管理
- ログの管理・分析の基盤の管理
- 本番環境に対する踏み台基盤の管理
- プロジェクト立ち上げのときに使えるboilerplateリポジトリの整備

## Platform Team の担当領域 - Corp System

---

- 全社で利用するSaaS (Google Workspace / Slack / 1Password 等) の管理
- 社内向けのID基盤の管理
- PCの管理
- オフィスのネットワークの管理
- MDMやEDRの管理
- リモートワーク環境の整備



## Platform Team の担当領域 - System Risk

---

- システム監査や検査の対応 (事務局)
- システムリスクのアセスメントのフレームワークの提供・ファシリテーション
- セキュリティ診断の実施のサポート
- コンテナスキャンや依存ソフトウェアの脆弱性スキャンの仕組みの提供
- CSPMのモニタリング
- サイバー保険の契約の管理

## Platform Team の編成のポイント - Beyond

※“Beyond” というのは会社のPrinciplesの1つ

- Beyond1: 3つの領域 (**Product** / **Corp System** / **System Risk**) をまたいで担う
  - それぞれの領域の連携を円滑にするため
- Beyond2: 事業組織のチームからのサポートを受けやすい仕組みを作る
  - 小さい組織のままでもボトルネックにならないようにするため
    - ⇔ 人数が増えすぎると、上記の領域間の連携が薄れてしまう

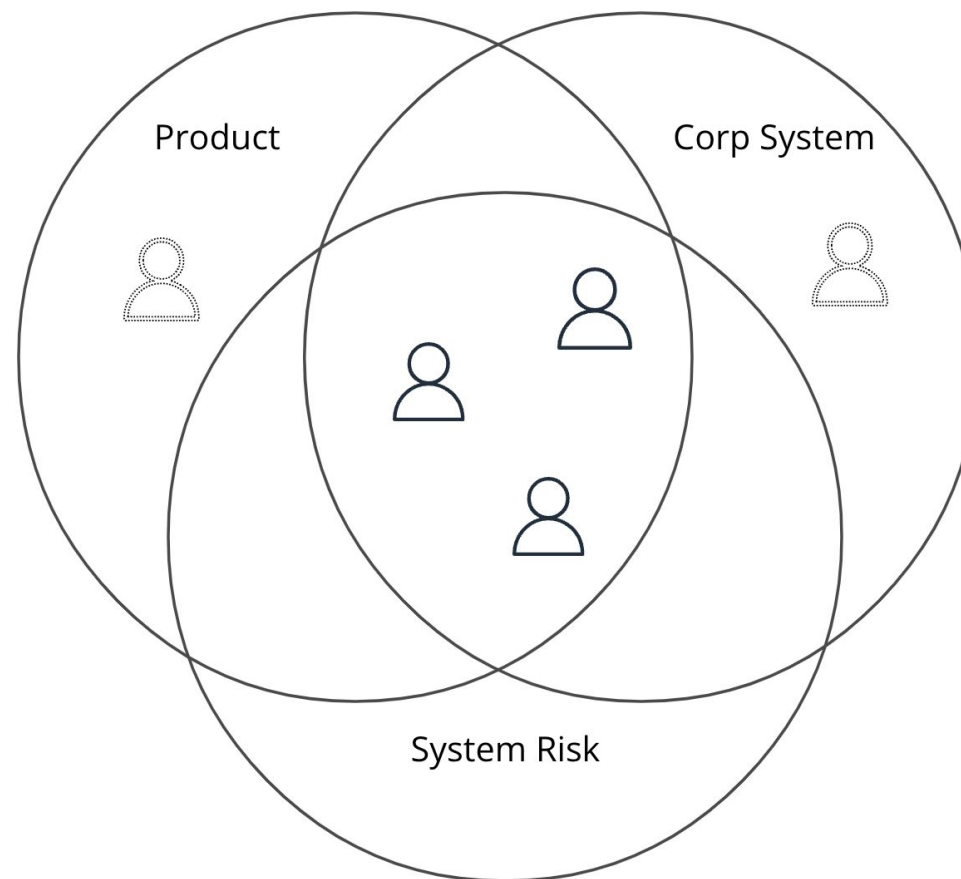
ただし、*Three Lines Model* は意識する

- *Product / Corp System* が 主に 1線 ~ 1.5線を
- *System Risk* が 主に 1.5線 ~ 2線を担うような設計

# Platform Team の変遷

## 発足当時の体制

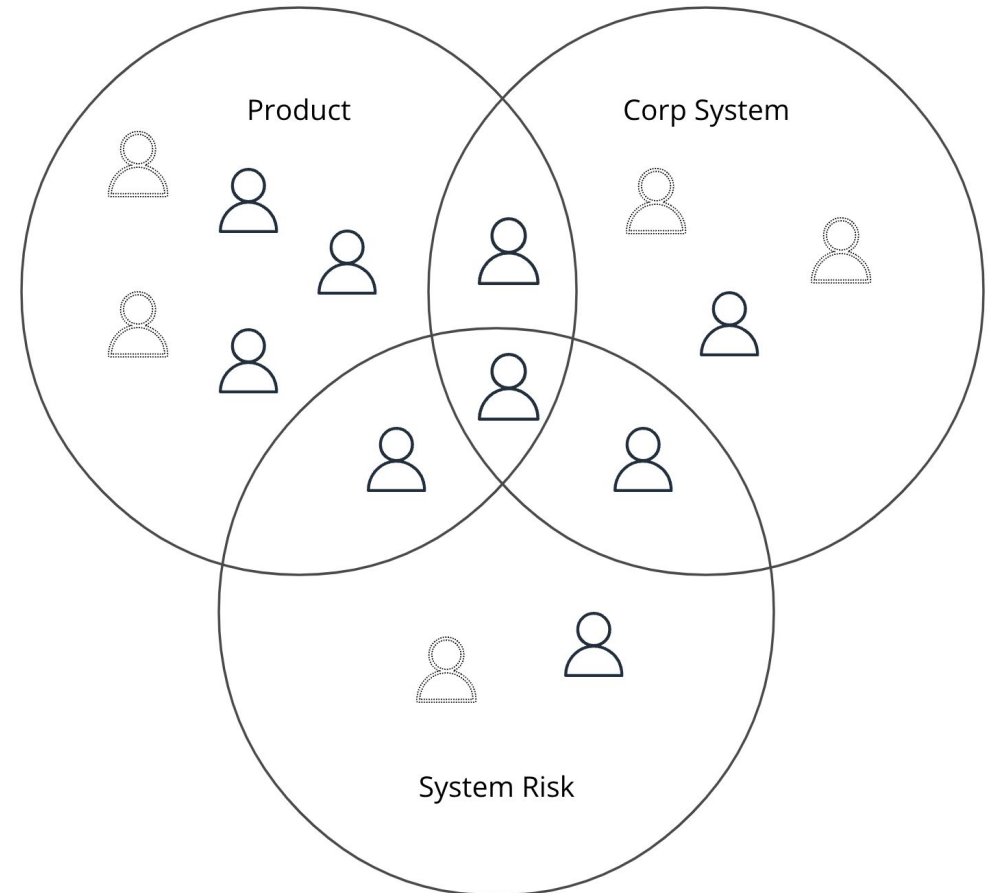
- メインは3名程度
- 他チームからも数名サポート
- 完全に1つのチーム
- Stand-up Meeting は 1ライン (チーム全員)
- “ 3領域を1つのチームで”  
というのも人数が少なかったので  
成立させやすかった



# Platform Team の変遷

## 現在の体制

- メインは9人程度
- 引き続き他チームからも数名のサポート
- 3つのサブチームに分割
  - Stand-up Meetingは4ラインに分割
    - All Hands (チーム全体の軽めの事務連絡)
    - Product
    - Corp System
    - System Risk
- チーム毎に完全にメンバーを分けるのではなく、意図的に兼務を作る



## Platform Team の Beyond の実践による恩恵

---

- **プロダクトの管理画面や各種SaaS**に、  
**社内のIDaaS**を使った認証を組み込みやすくなる
- 様々なコーポレートシステムの**自動化やコード管理**が進む
- システムリスク管理の担当者が自ら、  
**マネジメントコンソールでAWSの設定**や、  
**SaaSのアカウント管理**の実情を確認できるようになる
- **Azureのガードレール**を、**事業組織のエンジニアが整備し**、  
全社で使えるようになる
- **事業組織のエンジニアが安全に新規のAWSアカウントを発行**できるようになる

## まとめ

---

- Finatextグループの Platform Team について紹介
- 2つの **Beyond** を実践することで、  
小さいチームで幅広い領域を円滑に対応できるように
- こんな Platform Team のある会社に興味のある方はご連絡ください  
=> **X: @s\_tajima**



**FINATEXT**

**HOLDINGS**